

# タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告

2025年11月

## □■展示会レポート■□

### ◇◆工作機械・機械加工・製造技術総合展示会「METALEX 2025」◆◇

こんにちは。鳥取県東南アジアビューローの辻です。今月は METALEX2025 の視察レポートをお伝えします。

アセアン最大級の工作機械、金属・非金属加工技術に関する展示会「METALEX 2025」が、11月19日～22日にバンコクの BITEC 展示場で開催されました。本イベントは毎年この時期に開催されてます。

東南アジアで最も製造業が発展し、インフラも整っているタイにおいて、工作機械を中心とした展示会が「METALEX」です。工作機械のみならず、関連ツール、FA関連、検査設備など幅広い展示が行われ、アジア最大級のイベントとなっています。タイ経済のトレンドを肌で感じられる場もあります。

タイは、特定の産業だけが突出している国ではなく、原材料調達から部品加工、組立、輸出までを一国の中で連続的に行える“産業の連鎖”が形成された国です。バンコクから東部経済回廊（EEC）にかけて広がる工業地帯には、数千社規模の部品メーカー、加工業者、物流企業が密集し、多段階の製造工程を国内でつなげられる環境が整っています。

また、タイはアセアンの中心に位置し、陸・海・空の交通網が発達しているため、周辺国を含む広域市場に向けた生産・輸送の拠点としても機能しています。レムチャバン港はアジア有数の港湾で、欧米・中東・アジア各国への輸送が容易です。

さらに、外資企業の長年の進出により、熟練工や技術者、管理職層が厚く育っていることも大きな強みです。これにより、自動車だけでなく、電子部品、精密機器、医療機器など、高度な品質管理を求められる製品の量産にも対応できる国として評価されています。

政府は EEC を中心に、ロボティクス、航空機整備、バイオ産業などの次世代産業を積極的に誘致しており、多様な製造業が重層的に集積する構造の構築を進めています。これにより、単一産業に依存しない、より広範な製造拠点としての発展を目指しています。

#### ■ 展示会場の傾向

2025年の展示会場では、青色で示される日系企業および日本製品を扱うローカル商社のブースが、全体の約35%を占めていました。METALEXは工作機械が主要カテゴリーであり、同分野では日本製の採用率が高いことから、日系企業のスペース占有率が大きくなるのは自然な流れといえます。



# タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告

2025年11月

## ■ 国・地域別の展示傾向

### ● 中国企業

METALEXでは近年、中国企業の出展が目立つようになってきており、CNC、金属加工機、切削工具、測定機器、レーザー加工といった、価格競争力と供給能力を強みにするカテゴリーで一定の存在感を示していました。また、一部の企業は日本企業が得意とする精密加工分野にも展開しており、競争環境が徐々に厳しさを増している印象を受けました。



一方で、中国パビリオンは会場の最奥部に配置されていたこともあり、全体としては来場者がやや少なく、少し閑散とした雰囲気となっていました。

### ● ドイツ・スイス企業

欧米企業の中でも、特にドイツおよびスイス企業の存在感が際立っていました。ドイツパビリオンでは、精密加工、測定、ロボティクス、真空技術など、高付加価値の機械・部品が中心に展示されていました。一方、スイスパビリオンでは、精密加工・測定機器、工具、医療機器向け部品など、超精密分野に強みを持つ企業が集まり、先端加工技術への高い需要を反映した展示構成となっていました。



### ● 日系企業の動き

日系企業の動きとしては、JETROが25社による大規模パビリオンを構成し、タイ産業界のデジタル化・省人化ニーズに応える「製造業DX」をテーマとした特設ブースを設置するなど、新技術を前面に打ち出した展示が目立ちました。

# タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告

2025年11月

また、従来の工作機械・切削工具・検査機器に加えて、EV部品向けや難削材向けの工具、高精度な検査・測定ソリューションなど、高精度・高信頼性を強く訴求するブースも多く見られました。



## ■まとめ

METALEX 2025では、会場全体を通じて、製造現場の効率化や省人化を意識したDX・FA関連技術への関心が高まっているように感じられました。従来型の事業が伸び悩む中で、来場者がコスト削減や現場改善につながるソリューションを積極的に探している様子が見受けられました。

また、精密加工、多軸加工、ロボット、計測技術、製造管理など、タイ政府が掲げる付加価値産業育成の方向性と重なる分野の展示が増えている印象を受けました。特に精密加工やロボティクス関連のブースには、関心を持つ来場者が多く集まっていたように思います。

一方で、中国企業のブースは例年と比べると来場者がやや少なく、全体として存在感が弱まっているように感じられました。品質やアフターサービスに対する不安を口にする来場者もあり、慎重に見極めようとする姿勢がうかがえました。

その対照として、日系企業のブースでは「精密」「緻密」「整然」といった日本製品の特徴に注目する来場者が多く、改めて評価されているように感じられました。為替（円安バーツ高）の状況も影響してか、日系製品に対する関心が高まっている印象も受けました。

鳥取県東南アジアビューロー Tottori-Southeast Asia Trade and Tourism Bureau

担当：辻 三朗 Saburo Tsuji

Address: 1 VASU 1 Building, 12 FL., Room 1202/C, Soi Sukhumvit 25, Sukhumvit Rd.,  
Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

Tel : +66-(0)-2-260-1057

Mobile : +66-(0)-86-358-7298

Mail : [tottori@aaptth.com](mailto:tottori@aaptth.com)

【鳥取県東南アジアビューローの運営法人（鳥取県より業務委託）】

■アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aap.jp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インド・メキシコにて主に日系中堅・中小企業様の海外進出や進出後の会計税務法務を中心とした運営支援業務を行っております。

【免責事項】

■情報の掲載内容には万全を期しておりますが、その正確性、完全性、有用性、適用性についていかなる保証も行いません。また、その利用により生じた被害や損害に関して一切の責任を負いません。

タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2025年11月

ワンページタイ経済

| 項目   | 単位                       | 2022                     | 2023                     | 2024                     | 2025                     |
|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| GDP成長率   | 前年比ペ <sup>ー</sup><br>(%) | 2.7                      | 1.9                      | 2.3                      | 2.4<br>(9月)              |
| 人口*  | 千人                       | 69,922                   | 70,104                   | 70,245                   | 70,383<br>(9月)           |
| 労働者の数*   | 千人                       | 40,143                   | 40,674                   | 40,765                   | 39,998<br>(10月)          |
| 失業率**  | %                        | 1.32                     | 0.98                     | 1.00                     | 0.83<br>(10月)            |
| 最低賃金* バンコク<br>チョンブリー<br>アユタヤー <sup>ー</sup><br>ラヨーン | バーツ/日                    | 353<br>354<br>343<br>354 | 353<br>354<br>343<br>354 | 363<br>361<br>350<br>361 | 400<br>400<br>357<br>400 |
| 賃金：全国製造業の平均  | バーツ                      | 14,305                   | 14,416                   | 14,394                   | 14,394<br>(2024年)        |
| インフレ率**  | 前年比ペ <sup>ー</sup><br>(%) | 6.08                     | 1.23                     | 0.06                     | -0.49<br>(11月)           |
| 中央銀行政策金利*  | %                        | 1.25                     | 2.50                     | 2.25                     | 1.50<br>(10月)            |
| 普通貯金率**  | %                        | 0.28                     | 0.40                     | 0.39                     | 0.20<br>(10月)            |
| ローン金利(MLR) **                                      | %                        | 5.50                     | 6.83                     | 7.14                     | 7.05<br>(10月)            |
| SET指数*   | 1975年：100                | 1,668.66                 | 1,415.85                 | 1,400.21                 | 1,256.69<br>(11月)        |
| バーツ/100円**   | バーツ                      | 26.78                    | 24.82                    | 23.33                    | 22.16<br>(11月)           |
| バーツ/米ドル**  | バーツ                      | 35.06                    | 34.80                    | 35.29                    | 33.00<br>(11月)           |
| 円/米ドル**  | 円                        | 131.38                   | 144.07                   | 153.72                   | 155.12<br>(11月)          |
| 車販売台数(1月からの累計)                                     | 台数                       | 856,057                  | 702,921                  | 559,255                  | 493,467<br>(10月)         |
| BOI認可プロジェクト  | 件数                       | 1,554                    | 2,383                    | 2,953                    | 2,413<br>(9月)            |
| BOI認可プロジェクト金額                                      | 10億バーツ                   | 618.62                   | 750.12                   | 973.14                   | 1,114.798<br>(9月)        |

\*期末、\*\*平均